

今年には戦後・被爆五〇年の歴史的節目の年。戦後日本の再出発の原点は、平和と独立、国民主権、男女平等、民主主義そして核兵器の廃絶であった。私たち愛労連は、すべての労働者・国民が「人間らしく生き、働ける」社会をめざして、「くらしと職場に憲法を」のスローガンをかけ、着実な前進の道を切り開く運動をすすめてきた。

戦後五〇年を経て、異常円高と産業空洞化、農業つぶしと地域破壊、戦後最高の失業率と雇用不安、阪神大震災に見られる安全への不安、「オール与党」政治への不信の広がり、オウム・サリン事件、子どものいじめや自殺など、いま日本の政治、経済、社会は深刻なゆきづまりに直面している。職場では、リストラ「合理化」の嵐が吹きあられ、労働強化と雇用不安が増大し、将来への不安を限りなく広げている。

こうした状況をつくりだした大もとは、労働者・国民に犠牲を押しつけてつづけてきた財界・大企業の横暴と、それに奉仕し、アメリカいいなりに軍事大国化をすすめてきた積年の自民党政治、連立政権による翼賛政治にある。労働組合の原点から逸脱した「連合」の労使一体化路線がそれを補完している。

いま彼らは、このゆきづまりを日経連「新時代の日本的経営」に見られるように大企業のいかなる身勝手も横暴も思うがままに労働者・国民に押しつけ、憲法や民主主義の原則をなし崩しにすることで切り抜けようとしている。しかし、こうした悪政や横暴は、労働者・国民との矛盾をいよいよ深め、怒りと切実な要求を生みだし、国民的共同の必要性と可能性を大きく広げている。

この一年間、九五春闘での春闘の解体・変質を許さないたたかい、「連合」職場で働く大企業労働者や、愛商連など中小業者との共同のいっそうの前進。リストラ「合理化」反対・雇用確保のたたかいと争議解決。着実な組織の拡大、消費税・コメ・年金などでの県民的共同の前進、アピール署名の県民過半数の達成など、私たちは、着実な前進を勝ちとってきた。参議院選挙の結果は、公約違反を繰り返した与党三党、とりわけ社会党の大敗に示されているように、現政権に対する国民の厳しい審判がくだされた。私たちは、村山内閣が政権の座に居座りつづけることを許さず、村山内閣の即時退陣、国会解散・総選挙で国民に信を問うことを強く要求するものである。

今日の情勢は、広範な労働者と国民のたたかいが広がるなかで、愛労連にいっそう大きな役割を果たすことを求めている。たたかう労働組合の皆、階級的ローカルセンターとして、すべての労働者・勤労国民のなかに渦巻いている多様で切実な要求を総集し、財界・大企業と「連合」の春闘解体攻撃を許さず、国民春闘の旗を高くかけ、大幅賃上げをはじめとする諸要求を前進させよう。産業空洞化・地域破壊を許さず、解雇規制と雇用確保、トヨタなど大企業の横暴を規制するたたかいを広げよう。重大な局面を迎えている国鉄闘争、地労委の民主化闘争をはじめ、すべての争議勝利へ、たたかいを強めよう。

消費税率引き上げ反対、ナショナル・ミニマム確立、介護保障制度確立・医療保険改悪反対、コメ輸入自由化反対など、国民的共同の運動の先頭に立ってがんばろう。

戦後・被爆五〇年、核兵器の廃絶を求めるたたかいなど平和と民主主義を守り、憲法をくらしと職場に生かそう。総選挙での革新勢力の前進、国と地方政治の革新をすすめよう。

あらゆる労働者・労働組合との総対話をすすめて、共同を広げよう。職場・地域から愛労連を大きく強くしよう。

右、宣言する。

一九九五年九月三日